

「商用原発で初となるプルトニウム燃料（MOX）の使用」の取り出し作業が始まった。使用済燃料プールで、プルサーマル発電を継続するも、経済性や安全性に対する懸念が大きい。原発問題に詳しく、甲斐大学の張貞旭教授（64）に見た。

（聞き手・伊藤愛）
—1面参照



「プルサーマル発電は経済性がなく、通常の発電方法よりもリスクを伴う」と指摘する張貞旭教授—2019年12月下旬、松山市文京町

燃料は、よりも発熱量が多いため、事故発生時の危険が大きい。燃料は、よりも発熱量が多いため、事故発生時の危険が大きい。燃料は、よりも発熱量が多いため、事故発生時の危険が大きい。

質男立てこもり

運送会社「社長出せ」要求

六つ、島 けが人の情報はない。 町の運送 県警によると、男は「立

男は包丁のようなものを持ってたまま、女性事務員がいる会議室の出入り口付近におり、落ち着いた様子で捜査員とやりとりしている。



金品の要求はなく、県警は個人的な恨みがあった可能性があるとしている。現場はJR山陰線の出雲神西駅から北西に約1.5キロの住宅や農地が点在する地域。

静岡・富士サファリ 象牙や動物の歯 密輸出未遂疑い 元職員逮捕 静岡県裾野市の「富士サ

サーワント容疑者(27)は裾野市須山を逮捕した。署や東京税関成田税関支署によると、「知人に売ったり家に飾ったりするつもりだった」と容疑を認めている。署は押収品の鑑定を進め、任

「安全へ愚直さ不足」

制御棒誤って引き抜き

長謝 四陳

定期検査中の四国電力伊方原発3号機（伊方町）で核分裂反応を抑える制御棒1体を誤って引き抜くトラブルがあったことに関し、四電の長井啓介社長は14日、高松市内で愛媛新聞の取材に応じ「地域の皆さんにご心配を掛け申し訳ない」と陳謝。その上で「（原子力事業者としての）原点は安全な運用に愚直に取り

組むことだが、それを少し欠いていたと反省している」と述べた。トラブルは12日、核燃料取り出しの準備作業中に発生。燃料を固定している装置をつり上げた際、制御棒48体のうち1体が一緒につり上がり、約7時間、原子炉から引き抜かれた状態が続いた。長井社長は「（核分裂反

応を抑えるため原子炉内の冷却水の）ホウ酸濃度を上げていたので、安全性は十分確保されていた」との認識を示した一方「あつてはならないミス。原因を究明し対策を取る」と述べた。原因が明らかにならない中、燃料の取り出しを始め、燃料の取り出しを始めたことに関しては、再度の準備作業で「装置と制御棒が正常に切り離されている

今回の定検では、国内の商用原発で初めて使用済みプルトニウム・ウラン混合酸化物（MOX）燃料が取り出される。処分方法は決まっておらず、プールで当面保管されるが、「ウラン燃料と何ら変わらず安全に保管できる。一時的に保管した上で搬出する」と強調した。（岡敦司）

カミ輸入したMOX燃料は、ウラン燃料より約7倍高かった。ウランの市場価格によって多少変動するが、燃料費は7〜9倍かかる。一方で、発電効率はウラン燃料の85%ほどにすぎない。なぜならMOX燃料に4〜9%含まれるプルトニウムは、一般の原発（軽水

炉）よりも約1.5倍の速度で燃焼する。また、MOX燃料は高速増殖炉（HWR）でしか使えない。MOX燃料は高速増殖炉（HWR）でしか使えない。MOX燃料は高速増殖炉（HWR）でしか使えない。

安全な一時保管 計画的搬出要請 知事 四国電力伊方原発3号機（伊方町）の原子炉から使用済みプルトニウム・ウラン混合酸化物（MOX）燃料が取り出されたのを受け、中村時広知事は14日、

国には「使用済みMOX燃料を含めた使用済み燃料対策の着実な推進を要請したい」とした。国には「使用済みMOX燃料を含めた使用済み燃料対策の着実な推進を要請したい」とした。